

平成12年度第1回愛知県周産期医療協議会  
議 事 要 録

日 時：平成12年6月2日 午後3時から午後5時まで

場 所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：有吉委員、安藤委員、石田委員、岡田委員、梶浦委員、風戸委員、加納委員、  
小山委員、長嶋委員、判治委員、松澤委員、森川委員、森田委員

欠席者：戸苅委員、長屋委員、奈倉委員、野口委員、

事務局：愛知県健康福祉部児童家庭課長、愛知県健康福祉部児童家庭課主幹  
名古屋市健康福祉局健康部健康増進課長  
名古屋第一赤十字病院第三産婦人科部長、名古屋第一赤十字病院第二小児科部長

司会者：名古屋第一赤十字病院第三産婦人科部長

議 長：加納会長

1. 長嶋技監あいさつ
2. 石田新委員、梶浦新委員あいさつ  
事務局あいさつ
3. 会長、副会長選出  
会長 加納委員、副会長 奈倉委員
4. 加納会長あいさつ
5. 議事

(1) 平成12年度の愛知県周産期医療情報システムについて

平成12年度愛知県周産期医療情報システム機能拡充の提案

< 専門相談報告集計業務の追加 >

- \* 現在各地域周産期母子医療センターの専門相談件数を、事務局で手集計している。
- \* 平成11年度の第4回協議会に於いて、ネットワーク（イントラネット）により専門相談件数の集計を行うという提案により、専門相談報告入力（産科）（新生児科）の画面（案）を作成しました。
- \* ホームページに専門相談入力画面を作成し各地域周産期母子医療センターから入力し、事務局で集計する。（入力にはパスワード必要）
- \* ホームページに照会画面を作成し集計表、一覧表を表示する。（集計の詳細はパスワード必要）
- \* 情報システムの目標としては、新生児の転帰まで含めてデータベース化したいが、現在「母体搬送連絡書」は全国統一されているが、データベースは全国統一されていない状況である。
- \* 専門相談報告件数集計は、今後入力方法、集計項目等もう少し検討し随時修正を行いより良い入力画面にしたい。
- \* 入力は平成10年7月に遡って入力、データの蓄積を行いたい。
- \* 専門相談件数集計データベース出来次第、入力説明書作成し案内します。

< 各周産期母子医療センターのホームページ内容の充実 >

- \* 4月より各周産期母子医療センターのホームページを開設しましたが、現在未完成の所が多いので完成出来るようにしたい。
- \* 「愛知県周産期医療情報システムホームページ更新方法手順書」を、資料に添付しましたのでホームページ完成させて下さい。
- \* ホームページ完成させる為に、各施設協力をお願いします。

< セキュリティ強化 >

- \* 愛知県周産期医療情報システムのホームページ（一般公開）のセキュリティは回線接続装置（ルータ）とホームページサーバ（WindowsNT）である。

- \* 最近のホームページ改竄、クラッカーが目的サイトに攻撃をかける拠点にされると社会的信用を失う事になるので、別紙のようにセキュリティを強化します。
- (2) 平成12年度の愛知県周産期医療専門相談事業、調査・研究事業、研修事業についての事業計画
- < 専門相談事業 >
- \* 平成12年度は、総合・地域周産期母子医療センターにて持ち回りで実施する(年間9回)。
  - \* 開催予定月は、各施設の希望に沿い設定しました。
  - \* 各施設(案)の形式で、地域の特色を活かして開催して下さい。
  - \* 開催決定後、愛知県全産婦人科、小児科等医療機関に事務局より案内します。
  - \* 各施設は、事業計画を立て、終了後必ず事務局に開催報告をして下さい。
- < 調査・研究事業 >
- \* 調査・研究事業も2年間でかなりの成果が上がっているように思われます。
  - \* 平成12年度は以下の3テーマで、調査・研究よろしくをお願いします。
  - \* 最近の妊娠・分娩形態の多様化および水中出産の実態調査  
(主任研究者 戸苅 創、石川 薫)  
愛知県下の新生児外科疾患の実態調査  
(主任研究者 長屋 昌宏)  
愛知県下の胎児・新生児の先天性心疾患の実態調査(続)  
(主任研究者 松澤 克治)
- < 研修事業 >
- \* 平成12年度の研修事業は、研修会を9月2日(土)平成11年度調査・研究事業(3テーマ)の報告と「愛知県妊産婦・胎児・新生児研究会」を発足させ、総合・地域周産期母子医療センターより演題を募集し質議を行う。講演会を11月18日(土)「肺サーファクタントの機能的欠如と新生児疾患」を豊橋商工会議所での開催を予定します。
  - \* 豊橋での開催は、豊橋市民病院が主幹で行い事務局が協力します。
  - \* 「愛知県妊産婦・胎児・新生児研究会」の発足について、研究会会則(案)作成しました。
  - \* 愛知県医療協議会の下部組織として、研究会を発足させたい。
  - \* 学術的検討会として、よりフランクに話しの出来る場を作る。
  - \* 医師のみの参加に限らず、広く医療従事者の参加を求めて行く。
  - \* 「愛知県妊産婦・胎児・新生児研究会」を発足させる。
- (3) 平成11年度愛知県周産期医療調査・研究事業の最終報告
- < 愛知県下の母体搬送の実態調査と愛知県の周産期医療体制の問題点 >
- \* 愛知県における周産期医療体制の整備をより適正・効果的に実施していくことを目的に、愛知県下における母体搬送の実態を把握することを研究目的にしました。
  - \* 愛知県下の母体搬送について、平成11年1月～6月の半年間を調査しました。
  - \* 愛知県・名古屋市の消防本部・消防組合・消防署へ救急車搬送の実態調査を依頼しました。
  - \* 一次医療機関より二次・三次医療機関、或いは一次、二次医療機関より三次医療機関への救急車母体搬送総数は377件で、1年間に換算すると平成10年の愛知県総出生数75,000件の約1.0%に相当します。
  - \* 各地域医療圏での母体搬送数および出生数に対する割合は、名古屋医療圏で148件、1.0%、西三河南部医療圏で99件、1.7%、東三河平坦地医療圏で64件、1.8%、知多半島医療圏で31件、1.0%、尾張西部医療圏で15件、0.6%、尾張北部医療圏で14件、0.4%、西三河北部医療圏で5件、0.2%、東三河山間地医療圏で1件、0.4%でした。
  - \* 総合・地域周産期母子医療センターへの搬送件数は220件で全体の58%でした。
  - \* 調査対象期間中の月別での母体搬送件数は、1月66件、2月56件、3月59件、4月58件、5月75件、6月63件でした。
  - \* 救急隊指令時間(母体搬送出勤時間)は、00:00-04:00に29件、04:00-08:00に29件、08:00-12:00に110件、12:00-16:00に91件、16:00-20:00に69件、20:00-24:00に49件でした。
  - \* 愛知県下の病院施設産婦人科へ受け入れ母体搬送の実態調査を63施設に依頼し45施設より回答が得られました。

- \* 母体搬送総数は342件で出生数に対する割合は、1年間に換算すると約0.9%でした。
- \* 各地域医療圏の病院施設への母体搬送件数および出生数に対する割合は、名古屋医療圏の病院施設に160件、1.0%、西三河南部医療圏の病院施設に85件、1.7%、東三河平坦地医療圏の病院施設に61件、1.7%、尾張北部医療圏の病院施設に15件、0.4%、尾張西部医療圏の病院施設に10件、0.4%、知多半島医療圏の病院施設に8件、0.3%、西三河北部医療圏の病院施設に3件、0.1%、東三河山間地医療圏の病院施設に0件でした。
- \* 総合・地域周産期母子医療センターへの搬送件数は239件で、全体の70%でした。
- \* 母体搬送324件の搬送受け入れ時の妊娠週数、搬送理由病名、分娩週数、分娩様式、出産時体重、児予後を別表にまとめました。
- \* 妊娠週数では、全体の6割が28週～36週に集中しています。
- \* 分娩週数では、32週～35週が多く3割を占めている。
- \* 愛知県下の母体搬送の出生数に対する割合は1.0%で、これは平成10年度厚生科学研究補助金「周産期医療体制に関する研究」班による平成9年の「周産期・新生児医療施設の全国実態調査」調査報告書の愛知県の集計結果1.1%と概ね合致していました。
- \* 愛知県下の全母体搬送の約60%～70%を、総合・地域周産期母子医療センターで受け入れていることから、愛知県の周産期医療対策事業は概ね機能しているものと考えられる。
- \* 西三河北部医療の病院施設の母体搬送件数は3件でしたが、現在産科・小児科の連携を進めているとのことから今後は件数も増加すると思われます。

<愛知県下の新生児搬送の実態調査と愛知県の周産期医療体制の問題点>

- \* 母体搬送同様新生児搬送についても愛知県、名古屋市の消防本部、消防組合、消防署へ救急車搬送の実態調査を依頼しました。
- \* 調査対象期間は6ヶ月間としました。
- \* 施設で救急車を所有している病院にも調査を依頼しました。（名古屋第二赤十字病院、トヨタ記念病院、コロニー中央病院）
- \* 名古屋市救急車による生後28日以内の新生児搬送は231件で月別では、1月35件、2月44件、3月36件、4月41件、5月35件、6月40件で各月とも平均していました。
- \* 周産期母子医療センターへの搬送は105件で46%でした。（市外移動3件含む）
- \* 名古屋市立大学病院、聖霊病院などNICU、新生児病棟を持つ病院へ93件、約41%が収容され、うち7件は市外の新生児施設へ収容された。
- \* 名古屋市救急車で搬送された新生児のうち87%は2次、3次施設へ収容された。
- \* 名古屋市を除く愛知県下では、257件で1月35件、2月46件、3月45件、4月45件、5月43件、6月43件でした。
- \* 後方施設への搬送12件を除く245件のうち53%は愛知県総合及び地域周産期母子医療センターへ収容され、40%は新生児治療施設のある一般病院へ収容、93%（227件）が2次、3次新生児施設へ収容された事がわかりました。
- \* 愛知県において、新生児の入院依頼を断る件数は45%になっているが、後方施設紹介率は60%になっていることから、愛知県においては施設間の連携はよく行われていることが伺われる。
- \* 施設で救急車を所有して新生児の搬送を行っている3病院の調査では、216件の搬送があり、新生児総搬送数の30%を占めておりました。
- \* 一次調査で把握した690名のうち、二次調査では679名で98.4%の回答率がありました。
- \* 救急車同乗率は、医師80%、看護婦10%、で、保育器の使用率は85%でした。
- \* 体重別搬送では、1500g以上の児で成熟児が大半を占め、日齢では出生当日の依頼が主で、日齢を経るに従い減少していました。
- \* 月別搬送数では月間100～130例で、周産期母子医療センターが約40%を占めていました。
- \* 周産期母子医療センターでは、1500g未満の極低出生体重児の占める割合が低く、母体搬送が周産期母子医療センターを中心に定着して行われて来ていることがうかがわれる。
- \* 周産期母子医療センターでは、医師の救急車同乗率が低く、看護婦の同乗率が高いことがわかった。
- \* 新生児救急搬送数は、愛知県の全出生数の約1.6%にあたり、厚生省のデータとほぼ同じでした。

- \* 極低出生体重児は、母体搬送を行う方が有効であるが、緊急時には新生児搬送も必要になることから、産科、小児科の連携を密にし、協力する必要がある。
  - \* 新生児搬送の際に医師の救急車同乗を要望する意見が救急隊よりありました。
- <愛知県下の胎児・新生児の先天性心疾患の実態調査と今後の問題点>
- \* 周産期の代表的疾患の1つである胎児・新生児先天性心疾患の愛知県下での実態調査（発生数・治療経過等）を行い、その成果を平成13年度発足予定の愛知県小児保健医療総合センターの小児循環器部門の活動へ還元することを研究目的にしました。
  - \* 愛知県下で名古屋市立大学病院、中京病院に多くの胎児・新生児先天性心疾患の症例が集まり、次に名古屋第二赤十字病院、豊橋市民病院、一宮市民病院に症例が集まることから、中京病院の小児科医師にもアンケート依頼しました。
  - \* 愛知県内の分娩取扱診療所・病院 220 施設にアンケート依頼し、171 施設 77.7%の回答がありました。
  - \* 171 施設中 89 施設より、先天性心疾患症例「有」の返答が得られ、胎児・新生児症例のケースカードを送付し 66 施設よりケースカードの返送がありました。
  - \* 66 施設より、胎児診断症例 38 例（重複 3 例）、新生児症例 261 例の回答が得られました。
  - \* 愛知県内分娩取扱病院の小児科及び産科医院が委託している病院・小児科医院 76 施設に、「実態調査」のアンケートを依頼し 55 施設（76%）より回答があり、45 施設より先天性心疾患「有」の返答が得られました。
  - \* 45 施設にケースカードを送付し、393 例の症例カードの返答がありました。
  - \* 産婦人科「胎児診断先天性心疾患病型別頻度」、「新生児先天性心疾患病型別頻度」、小児科「新生児先天性心疾患病型別頻度」は表 1・2・3 のような結果でした。
  - \* 全体の症例の診断・治療経過の詳細は、調査続行いたします。

#### (4) その他

- <名古屋第一赤十字病院総合周産期母子医療センター平成11年度総括>
- \* 総合周産期母子医療センターの平成11年度の総括を作成いたしましたのでご覧下さい。
  - \* 名古屋第一赤十字病院のPICUの病床利用率は、70%~80%で、NICUの病床利用率は100%になっています。
  - \* PICUの病床利用率を100%にするためには、1.5倍の病床数がNICUに必要と考えられることから、今後検討が必要である。
- <「健やか親子21」について>
- \* 21世紀の母子保健の取組みの方向性を提示し、目標値を設定し、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画です、別紙を参照して下さい。
  - \* 「健やか親子21」検討委員会もすでに第1回は開催され、今年度中に策定予定です。
- <愛知県周産期医療協議会調査研究事業報告について>
- \* 学会に調査・研究事業の研究結果を発表してよいか。
  - \* 「愛知県周産期医療協議会」会長名を入れて、学会で発表し、事務局に報告して下さい。
- <次回医療協議会開催について>
- \* 次回平成12年度第2回周産期医療協議会を、平成12年11月24日に開催します。